

日本コエンザイムQ協会 が発足

わが国でうつ血性心不全の治療薬として使用されてきたコエンザイムQが2001年3月の食薬区分改正により、サプリメントとしての利用が可能となったことから、コエンザイムQに関する正しい知識の普及、科学的研究を奨励するために日本コエンザイムQ協会（理事長：山本順寛東京大学助教授）が11月1日設立された。

コエンザイムQは、細胞のエネルギー生産に不可欠な物質として1957年に発見され、生体の老化やガン、動脈硬化、糖尿病、パーキンソン病などの成人病を進行させる活性酸素、フリーラジカルによる障害を防ぐ重要な抗酸化物質であることが判明。しかし、体内で合成されるコエンザイムQは、加齢とともに減少することから、欧米では高齢化にともなう障害を防ぐサプリメントとして補給することが盛んになり、その関心と期待が高まってきている。

そこでわが国でも、サプリメントとしての供用にともない、正しい知識の普及と科学的研究を奨励することにした。しかもコエンザイムQの量産化に成功しているのは鐘淵化学、日清ファルマ、旭化成、三菱ガス化学の国内4社であることから、今後、高齢化社会における究極の若返り素材として日本発の切り札として注目される。